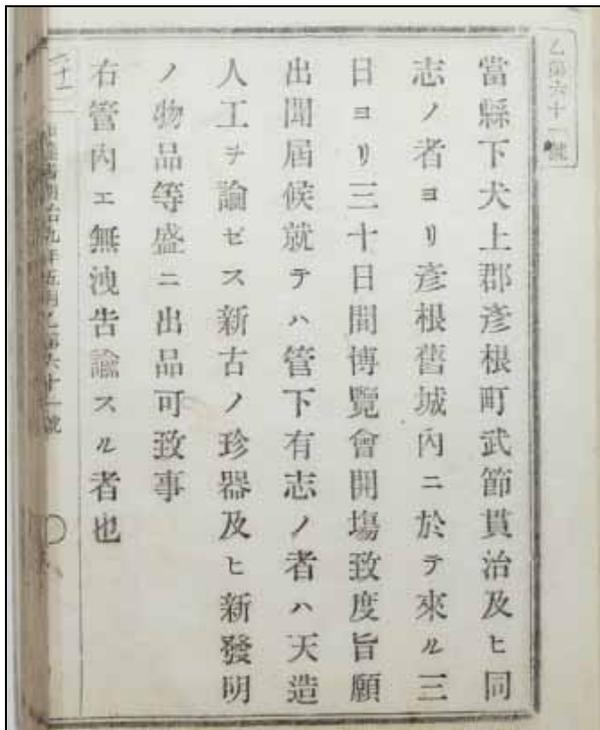


展示「滋賀県と博覧会」

平成22年5月10日～6月11日

1 博覧会のはじまり 明治初期

政府が主催した博覧会だけでなく、有力者が呼びかけ人となった博覧会などが各地で数多く行われた。



彦根旧城において博覧会開場につき出品
方布達

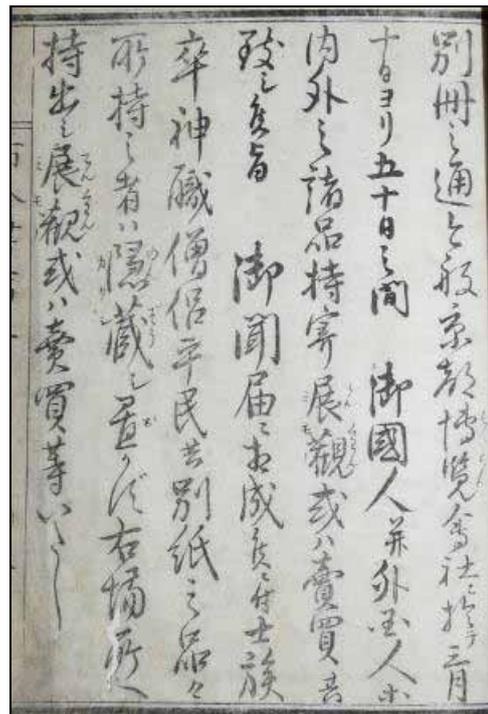
明治9年(1876年)

もと彦根藩士の武節貫治^{ぶせつ}らが呼びかけ人
となって、彦根城で博覧会が行われた。
井伊家を始め個人や寺社など100を越え
る出品者から仏像などの美術・骨董品や地
球儀・胎児の標本など博物学的なものな
ど、802点にものぼる展示品が集められ
た。

京都博覧会開催の布令

明治5年(1872年)

京都博覧会社(後に京都博覧協会)が主催
した第1回京都博覧会が西本願寺など
を会場として開かれた。
展覧と売買のため、隠すことなく品物を
差し出すよう県から達せられている。



博覧會為差出度品々左ノ通

牧帳置表	天狗丸	煙草	写寺ノ鐘是宝物	大芋	苧	紅晒カスリ文布	茶壺并陶器之類	并製茶	製茶	藤細工物
蒲生郡	八幡町	中野村	川森村	八幡山	深山口村 駒月村	伊庭村	信樂谷	水口村	前山 野山村	水口村
牧村	東忠兵衛野持	市原谷	八幡山	八幡山	深山口村 駒月村	伊庭村	信樂谷	水口村	前山 野山村	水口村
甲賀郡										

博覧會への出品要請

明治5年(1872年)

布令にもかかわらず第1回京都博覧會への出品物は集まらなかったようで、県下の「当国の名品」を多少にかかわらず差し出すよう、リストをあげて再度通達している。

多羅尾村の大卵、京都博覧會へ出品

明治10年(1877年)

甲賀郡の多羅尾村の鶏が産んだ大きな卵には、中にもう一つの卵が入っていた。「卵中に卵を含生するはまた奇」として、県はその年の京都博覧會へ殻を出品した。卵は周囲6寸4分(約19cm)、重さ45匁(約169g)、中の卵は4寸6分(約14cm)、14匁(約53g)だった。

中ヲ驗ルニ足虫白ト黄トアリテ尋常ノ卵ニ同シ(但黄体ノ稍小シテ蛋白ノ分外、多シトハ合強)然レテ別ニ一卵ヲ保テ含有セリ其横周リ太サ四寸六分ニシテ目方十四分ハ分テ此卵モ尋常ノ雞卵ノ稍大ナルモノニシテ殼モ厚ク別ニ異状ナレ割テ其中心ヲ驗スレハ黄体ノ前者(則テ大卵中ノモノ)ニ比較スレハ二三割モ大ナルヘシ足虫白ハ常ノ如シ

右ノ如ク卵中ニ卵ヲ含生スルハ甚奇

右卵中ニ卵ヲ含生スルハ亦奇ト云ヘシ故ニ江湖ノ廣告レラ博物先生ニ賀セントスレテノ因ノ如シ

大卵ヲ割テ内部ノ形状ヲ示ス

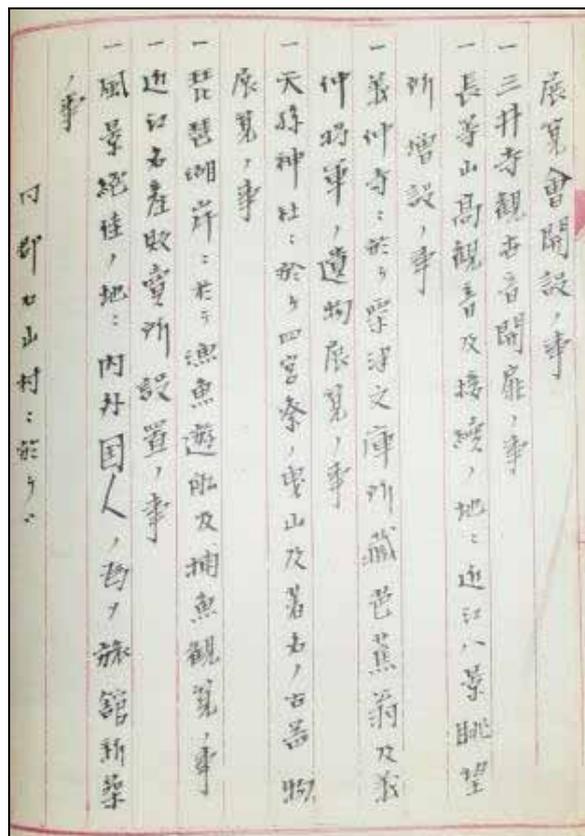
但此大卵ノ殼ハ京都博覧會へ出品セリ

外卵殼色依白

内卵殼色依赤

第4回内国勸業博覧会の滋賀県
における施設事業
明治28年(1895年)

「平安奠都紀年祭」として内国勸業博覧会が京都でも開かれた。県では、多くの内外国人を誘致しようと観光案を作っている。大津町では天孫神社の「古器物展覧」や琵琶湖岸での「捕魚観覧」などを計画している。



3 博覧会の発展

産業振興に目的を絞った共進会やテーマを持った博覧会が開かれていく



第4回関西連合府県共進会

明治25年(1892年)

「第4回関西連合府県共進会」は奈良の大仏殿で開催され、近畿のみならず北陸・中国・四国も含めた2府12県が参加した。4月1日から5月20日までの会期中、合計10万人の来場者があり、その中には外国人も200人含まれている。

